オーナーコピーライターのひとりごと 気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや5年

ウェーデンハウスを建ててしばら た娘のために、夫が手作りしたも くたった頃、おままごとに目覚め おもちゃのミニキッチンだ。ス 我が家にはキッチンが2つあ ーと言っても、一つは娘専用の

できるの?」と私はさんざん訝し 工」はなかった。だから「本当に

実はそれまで、夫の趣味に「木

んだ。設計図らしきものが出来て、

を…と探している自分がいる。 なっていくようだ。気が付くと、 木に囲まれて過ごしていると、な はもちろん、プラスチックや金属 と、木が好きになる。コンクリート おもちゃも、なるべく木製のもの インテリアも、身の回りの雑貨も、 んだか自分まで優しく、自然体に にはないぬくもりが木にはある。

The second of th

ていると、不思議と環境問題にも

たいと思っている

そして木を相棒にして生活をし

してみたが、「オレが作るんだ」と のプレゼントにしたら?」と提案 り作って今年のサンタ・クロース 道具を揃え始めた頃には「こっそ

蹴された。サンタに手柄を横取

うのだ。胸を張れる選択なのだ。 ちながら、これから少しずつ、自然 だことは、「良いこと」だったと思 けで…スウェーデンハウスを選ん 関心が湧いてくる。木は切り倒さ る小さな娘。2人でキッチンに立 して木に親しみ、木と暮らしてい で来て手伝いをしてくれる。幼く 願い」と頼めば、嬉しそうに飛ん 私が料理を始めると、娘も真似を 本物のキッチンの並びに置かれ、 うーん、しあわせだなあ、我が家は。 化に僅かでも貢献できるというわ CO2は缶詰のままだ。我が家が も子もないけれど、使い続ければ 捨てられ、燃やされてしまえば元 詰のようにそれを閉じ込めている。 れる直前までCO2を吸収し、缶 こと…大切なことを、伝えていき とともに暮らすこと、地球環境の して料理を始める。「ちょっとお 100年このままなら、地球温暖 「お父さんの作ったキッチン」は、

りされてなるものか…娘にありが れから2年かけて、小さなキッチ とうを言われたい一心で、夫はそ

ンを完成させた。 スウェーデンハウスに住んでいる

Emportment of the contract of

オーナーコピーライターのひとりごと 気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや5年

りゃあ、若い頃には仕事帰りに遊 えたり書いたりすることができる。 わされることなく、落ち着いて考 多い。夜ならば、電話やメールに煩 ライターの仕事は夜になることが きっとそうであるように、コピー のだ。そして、他のクリエイターが 谷も遠い存在。案外地味な職業な 自宅に移してからは、西麻布も渋 びに出掛けたこともあるけれど、 ね、こんなに普通の人間で――そ 言われたことがある。残念でした でも飲んでる人種かと思った」と たりの洒落たお店で、朝までお酒 フリーになって15年、仕事の拠点を 「コピーライターって、西麻布あ

る頃には、何を考えていたのか思 隣りの寝室からゴトッと音がす い出せない― 様子を見に立ちあがり、戻ってく したのか…もしや、起きたのか? る。寝返りなのか、布団を蹴飛ば 夜中にがっつり集中していると、 から、「籠る」ことが難しくなった。 に「籠れる」場所なら、それでいい。 資料が収まる本棚があって、静か いい。机とパソコンとプリンター、 重要になってくる。広くなくても ていると、「書斎」の居心地はとても しかし、6年前に娘を出産して 一これじゃあ、



小さなお城

にしてください」という注文をつ 眠っている娘の様子が分かる場所 「書斎はとにかく快適に。そして、 そして、我が家の設計時、 、私は、

な場所となった。 城」だが、必要充分。私の大好き クイン・クローゼットとどっちが ぎず、寒すぎず。隣接するウォー 大きいの?というほどの「小さな できる。窓際に机を置いても暑す 寝室の様子も分かり、仕事に没頭 戸を開けておけば、席を立たずに もらい、大きな窓をつけた。引き 寝室の一角にスペースをとって

なずく。うーん、しあわせだなあ がいちばん」と小さく、笑顔でう 心を癒す。「西麻布は、あっちの 夜は高速道路を走る車のライトが り取られ、昼間は大きな青空が 目を移す。美しい木製サッシに切 方かしら」などと思いながら、「家 煮詰まった時には、大きな窓に

The second of th

にならないよ…。

Benediction of the commonweal of the common of the common

オーナーコピーライターのひとりごと。気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや6年

and the commence of the commen

カラのザ家

明日が、楽しみ

タイトル横のコピーにあるように、この5月で我が家は、スウェーに、この5月で我が家は、スウェー何を隠そう、私は若い頃から大の引っ越し好きで、20代には賃大の引っ越し好きで、20代には賃大の引っ越し好きで、20代には賃付マンションを転々としていた。しょっちゅう住所変更の書類を出たほどだ。結婚し、賃貸を卒業してもなお、同じ場所に長くいるとてもなお、同じ場所に長くいるとてもなお、同じ場所に長くいるとてもなお、同じ場所に長くいるとのとなく落ち着かない。何か違う、ここじゃない・新しい場所に行かないと、自分を新しくすることなんかできないと信じていた。

いいほど飽きさせなかった。それはこの5年間、私を全くと言ってところが、スウェーデンハウス

The second of th

木のぬくもりのせい?キレイな空気のせい?頑丈さのせい?…理由はたくさんあるが、中でも特別に、私の目に日々初々しいものがある。それは「シェード(ブラインド方式のカーテン)」だ。落ち着いた、センスの良いインテリアコーた、センスの良いインテリアコーた、センスの良いインテリアコーかけ、納得いくまで選ばせてもらっかけ、納得いくまで選ばせてもらった我が家のシェード。夕暮れ時、



引っ越しなんかしなくても、容易 窓ならではの、大きなシェード…私 ウェディッシュ柄の布地が現れる。 る。次の時間が楽しみになる。うー に気持ちを切り替えることができ なふうに思える住まいは、引っ越 が暮れるのが待ち遠しい――そん かと、常日頃から感じている。日 暮らす醍醐味の一つなのではない はこれも、スウェーデンハウスで のだ。スウェーデンハウスの大きな るその瞬間が、私はとても好きな 昼間の面持ちとは違う空間が始ま シェードを降ろすと、そこにはス ん、しあわせだなあ、我が家は。 し多しといえども、この家だけだ。

まった。 に違いない。 に違いない。 を、関いた者とは、新しい一を、前が来るのが待ち遠しい―― 次の5年も、そのまた次の10年も… 私はこの家を、大好きなままでいる に違いない。

25

オーナーコピーライターのひとりごと。

カラのザ家

としてはただただ微笑ましく、面 なる」という心地よくも面倒くさ こか羨ましく、懐かしく、「好きに ない…そんな娘を見ていると、ど の前ではすっかり固まり、声が出 時中話題を持ち出すくせに、本人 したと聞けば回復を祈り、覚えた 白がって見守るしかない。怪我を 保育園の副園長先生とくれば、親 が40歳の妻帯者、3月に卒園した なのかもしれない。おまけに相手 まだ7歳になったばかりだから い、そしてとても大切な感情に、こ てのひらがなで手紙を書き、四六 「好き」がほんの少し膨らんだだけ 娘が恋をしている。と言っても

恋の季節

ゆったり感じる」と絶賛――確か というような場所で立ち止まり、 りオープンハウスを試みた。 やって来た。大学時代に建築の勉 だけで、とても贅沢」「家全体が 特に廊下や階段については「これ た「廊下や階段」にも興味津津 学コースで進んでいく。そして デッキ、和室…と娘が案内する見 と言った彼は、リビング、ウッド 強をしていたそうで、スウェーデ ん、自慢の「窓」や、ゆったりとし いちいち感心してくれた。もちろ 「え?そんなとこ見て面白いの?」 とか。「ぜひ一度」ということにな ンハウスには昔から興味があった 玄関で「木の香りがしますね

> 移動するための「通路」ではない。 をはよく階段に腰掛けて絵本を読 がでいるし、陽光溢れる踊り場は がでいるし、陽光溢れる踊り場は がった。そして、これはバリアフ リーを考えたモジュールなのだと が明すると、彼は「なるほど」と うなずいた。

スウェーデンハウスのことを好きだという人に出会うと、なんだか嬉しい。「大好きな家なんです」と紹介できることが、とても嬉しと紹介できることが、とても嬉しい。自分に似た人を見つけたようで、心がキュッとなる。 うーん、しあわせだなあ、我が家は。

別れ際に娘は、消え入るようなた。小さな恋は、この先どこへ行た。小さな恋は、この先どこへ行

誰かを好きになる。何かを愛し ラと輝き始めるような出会いを、 一つひとつ大事にしながら、大人

ちらまで心がキュッとしてしまう。

さて、その彼が、先日我が家に

に、我が家の廊下や階段は、ただ

and the commence of the commen

オーナーコピーライターのひとりごと。

Managaran and a second and the contract of the

ウラのザボ

自然の中に、行きつけの場所があるというのは素敵だ。行きつけの海がある、森がある、山がある――銀座に行きつけのお店が何軒もあるなんていうのより、数百倍かっこいい。どんなに疲れても、とんなに迷うことがあっても、そこに足を向ければ、自分をチューニングすることができる…それってすごく贅沢だ。

20代の頃、家を建てるならコンクリートのうちっぱなしの家がいいなと思っていた。でなければ、超高層マンション…なんとなく無機質なものに憧れる年頃だったのだろう。好んで黒い服を着たり、メタリックなものを身につけたり

いと思っていた。

ところが、20代も終わりに近づくと、なんだろう、色々なものがまとわりついてくるような感覚に、日々疲れを感じるようになった。ストレスというやつだろうか?自分が自分らしくない気がする。きちんとチューニングできていないギターを弾いているような、首をかしげたくなるようなな、首をかしげたくなるようなな、首をかしげたくなるような

そんな時、珍しく家族で旅行に出かけた。戸隠へ、かたくりの花 歩きながら、私は自分の心のトゲ トゲが、ポロリポロリと落ちてい

The second secon

合わなだ

めにした。

素直になった。背伸びするのをや

その旅行以来、私は少しずつ足りなかったんだ――。

家を建てるなら、木の香りのする家がいいと思うようになったのる家がいいと思うようになったのといつ頃からだろう。スウェーデンハウスに初めて足を踏み入れたけ、あの日の「森歩き」を思い出し、

スウェーデンハウスは、「森から やってきた家」だ。住んでいると やってきた家」だ。住んでいると 然体に戻れる場所が、「ただいま」 を言う場所で良かった。うーん、

自分らしさを取り戻す場所、それが「家」だ。だから「家」は「自然」であるべきだ。自然の近くで生きていく――私の毎日もくで生きていく――私の毎日もはないかと、この家との出会いに感謝している。

森から来た家

THE SWEDEN HOUSE 144

25

オーナーコピーライターのひとりごと 気が付けば、スウェーデンハウスを建ててはや6年

まであったかくなりたいと思う を食べて、おしゃべりをして、心 恋しくなって、誰かと美味しい物 季節がやってくる。なんとなく人 くなって、もうじきクリスマス。 年で一番賑やかで、光が美しい カレンダーの残り枚数も少な

と聞き分けてベッドに向かってく を気にして夜よりも昼に集まるこ も大好きだ。娘がまだ未就学だっ クリスマス・パーティーをするの 週末は気の置けない友人たちと、 家族で」が基本だが、当日以外の とが多かったが、今や娘も小学生。 た昨年までは、寝かせる時間など 「先に寝ていて」と言えば、ちゃん 我が家の場合、「クリスマスは

> かにプランを立てている。 夜更かしするのもいいなあと、密 何回か、大好きな人たちを招いて れるようになった。今年あたりは

その前に住んでいた賃貸マンショ 聞こえてきてしまう。隣の音が聞 ドアがバタンと閉まる音や、何か はならない。しかし夜中になると、 が床に落ちる音など、それなりに 弟の生活音も、昼間はさほど気に にしたけれど)。お隣の男子3兄 点の音がうるさくて自分で二重窓 た建物だった(といっても、交差 ンに比べれば、格段にしつかりし に住んでいた分譲マンションは スウェーデンハウスを建てる前

> アノのための「防音室」がいらな とても気を遣い、「そろそろ解散 時間までのパーティーは、やはり 交差点の騒音を、図書館並みの静 しないと…」と内心ひやひやした いくらいだから、すごい。渋谷の ハウスの窓の遮音といったら、ピ でも、今は違う。スウェーデン

たくさん笑って、うんとあたた が更けるまで、たくさん話して、 かったな。 過ごそうよ…そう言える家でよ かくなって、クリスマスを一緒に どうかゆっくりしていって。夜

深夜の笑い声も、音楽も、「ひそ

ら、すごい。窓を閉めたが最後、

ひそ話」に変ってしまう。

けさにしてしまうっていうのだか

だなあ、我が家は、 くなっちゃう…うーん、 窓の飾りは?お料理は?プレゼ ントは?あれこれ考えると眠れな さーて、ツリーはどこに飾ろう。 しあわせ

mentioned contractions of the contractions of the contraction of the c

はず。足音、笑い声、音楽…遅い こえれば、我が家の音も聞こえる

夜し

25 THE SWEDEN HOUSE 145

Managaran and a second and the contract of the